

—森林認証制度と我が国の森林・林業の将来—

日 時:2004年4月3日

速水林業 速水亨



なぜ森林認証？

1. 賢い消費者の消費から賢い市民の消費へ
2. どこからきた木材か
3. 再生産できる木材を使用する事は地球を守る
4. 違法伐採の木材を排除する
5. 日本の人工林を活発に利用して世界の原生林を守る

2000年認証当初の考え方



私にとってなぜFSCだったか

1. 認証に林業経営の新しい一面を見つけた
2. 速水林業は持続的に林地を循環利用
3. 林内下層植生の維持、広葉樹の繁茂
4. 近年、より一層環境に配慮⇒FSCと通じる
5. 働く者との豊かさの共有
6. 継続して安定した経営は地域に貢献する
7. 森林重視のFSCがISOよりあっている
8. 国際的環境NGOのサポート
9. 日本に適切な認証実例が必要

2000年認証当初の考え方



速水林業の審査の準備

1. FSCの原則と基準を読み、経営の実情と森林の現況に照らし合わせる
2. 森林施業計画を中心、長期の計画と環境配慮を明文化
3. 実状を明確に説明出来る資料を準備
4. 「美しい山づくり」を目指す施業に変化なし
5. 従業員全員に繰り返しFSCを理解させた
6. 従業員にやるべきことを実行し、審査の質問には誠意を持って正直に回答すること

2000年認証当初の考え方



日本のFSCの今後

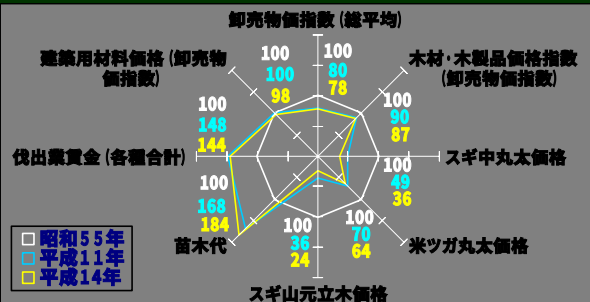
—認証直後の考え方—

1. 日本の認証基準が必要
2. FSCとは別に森林の環境ガイドラインが必要
3. 国内に認証機関が必要
4. 1000haで100万円以下の費用で認証
5. 森林管理リソースマネージャーが必要
6. 認証木材の流通過程へのPRを
7. モニタリング手法の早期の確立
8. 認証取得のノウハウではなくFSCの精神を
9. FSC自体を目的化せず適切な森林管理を
10. FSCは森林管理の倫理観を問う

2000年認証当初の考え方



林業を取り巻く情勢の変化



資料: 日本銀行「卸売物価指数時系列データ」、農林水産省「木材価格」、(財)日本不動産研究所「山林系地及び山元立木価格調査」、厚生労働省「林業労働者職種別賃金調査」、林野庁業務資料
注: 昭和55年(1980)を1.0としたときの平成14年(2002)の指数

2004年4月

森林に何を求めるか

過去の捉え方

1. 面の広がりを求める
2. 木材生産のみ目的
3. 人が入れない森林
4. 国の政策
5. 関係者だけの理論
6. 近視眼的なコスト

今後の捉え方

1. 質の高い森林
2. 多様な機能発揮
3. 誰もが入れれる森林
4. 国民の森林政策
5. 説明責任
6. 広い視野でのコスト

2004年4月

森林経営の変わるべき方向

質の高い森林	生物が多様に生息する森林等
多様な機能発揮	特に炭素固定、環境的な役割
誰もが入れれる森林	道や歩道の整理、森に入る時の配慮の教育
国民の森林政策	森林が人々の生活と関わりがあることを森林関係者は理解し透明な政策を
説明責任	森林に多額の公的補助が入っているなぜ必要かどこに投資したかを説明
広い視野でのコスト意識	長期的に考えたコスト 高い補助率では無くコストの作業

2004年4月

木材は何に使われているか

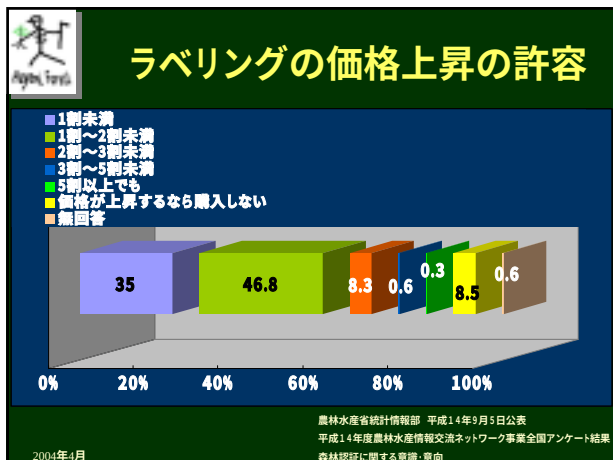
- 木材の56%が燃料に消費されます。
- 日本は世界の木材貿易の20~30%を輸入しています。

2004年4月

なぜ森林認証？

- 賢い消費者の選択から賢い市民の選択へ
- 違法伐採の木材を排除する
- フェアー・トレード
- 森林関係者の意識改革

2004年4月



各種森林認証

FSC Forest Stewardship Council

森林管理協議会

PEFC Pan European Certification

SFI Sustainable Forestry Initiative

CSA Canada's National Sustainable Forest Management Standard

Sustainable Green Ecosystem Council

緑の循環認証会議

2004年4月



FSC認証と国内認証の違い

1. 森林問題は国際問題
2. 国際的なNGOの支持と監視が重要
3. 消費国こそグローバルスタンダード
4. 森林認証は差別化
5. 簡単に取得できるなら、無駄なコストを重ねるだけ
6. 制度から考えるのではなく基準から考える
7. 日本型の認証制度に必然性は感じられない

2004年4月



FSC取得のメリットは

1, 森林

- ① 持続的森林管理を合理的に具体化
- ② 管理意識の向上
- ③ 既存行政施策から自立する思想
- ④ 環境に敏感な団体・市民の支持
- ⑤ 消費者に直接木材を販売できるツール

2, 流通・加工

- ① 認証は環境リスクの回避が可能
- ② 環境に敏感な流通業との連携
- ③ 公共事業に差別的利用の可能性
- ④ 木材の唯一のブランド
- ⑤ 消費者・流通業界の目をひくブランド

2004年4月



速水林業の認証後の変化

1. 認知度の向上により、販売対象の拡大
→ホームセンター、工務店、出版社、化学メーカー、セレクトショップ等→柱や板だけでなくあらゆる木材の販売
2. 一般の消費者からの木材受注の発生
3. 森林の多様な機能の有価化の可能性
4. 企業イメージの急激な上昇

2004年4月



FSC取得のデメリットと注意

1. 現在の林業では認証コストを吸収し難い
2. 環境管理の経験の無さから来るランニングコスト高
3. COC認証は日常的管理のコスト高
4. ラベルは品質証明ではない→良い商品?
5. 流通改革が無いとメリットは小さい

2004年4月



人工林の具体的な管理



1. 林業は環境に大きなインパクトを与える
2. 多雨の日本では地表植生維持に配慮
3. 多様な林況をモザイク状に配置
4. 木は生長するから時間的なステージで多様性を考える。
5. 多様性の確保と汚濁防止、水生昆虫の産卵、動物の水場としての河川のバッファゾーン
6. 倒木 (Downed trees) 枯木 (Snags) を残す
7. 環境的な管理を実行した人工林の例 (保護林185種 人工林243種)

2004年4月



速水林業の育林の変化

徹底した集約育林によって高品質なヒノキを生産してきたが、同じ質を保ちながらも作業の見直しによって、コストダウンをはかる。3分の1まで作業量を引き下げた。

林種	作業区分	人数	林種	作業区分	人数
1	地際え	10	1	地際え	30
	植え付け	25	1	植え付け	40
2	除草除草布	4	2	下刈り	12
3	ツタ切り	1	2	補植	6
4	ツタ切り	1	3	下刈り2回	20
			4	下刈り1回	12
			5	下刈り1回	12
			7	下刈り1回	12
8	除伐、小払い	16	8	除伐、被打ち	20
10	作業調査	1	10	下刈り、除伐	15
	除伐、被打ち	8		被打ち	20
13	除伐、被打ち	12	12	除伐、被打ち	24
			15	下刈り、除伐	18
16	作業調査	1		被打ち	25
	除伐、被打ち	18			
19	除伐、被打ち	26	18	下刈り、除伐	18
				被打ち	25
			21	被打ち	34
			23	下刈り	15
24	作業調査	1		除伐	5
	除伐	7			
			28	下刈り	12
				調査	1
29	作業調査	1		除伐	5
	除伐	4			
	合計	136		合計	413

2004年4月



速水林業の山造りの考え方

1. 地域住民に理解してもらえる経営
2. 環境的に豊かで美しい森林
3. 環境管理型人工林育成技術の確立
4. 安全確保、機械化推進、林道網拡充、技術向上等日々の努力を続ける
5. 毎年一つ新しいことを実行する
6. 議論の存在する現場

2004年4月



速水林業の経営の方針

1. 桧の高品質材の用材生産 → 適切な時期の作業、枝打ちの実行
2. 安定的伐採量の維持(成長量の維持) → 材価の維持 → 他の木材との差別化と加工販売
3. 間伐を主力にして長伐期へ → 皆伐は行方が間伐を積極的に実行
4. 可能な限り省力に努める → 目的のための最適な作業
5. 育林・収穫・出荷の一環経営 → 地元の木材業界と協力し流通の短絡化

2004年4月



今後の販売の方向

- ・ 材価の急激な下落 9万円→4万円 / m³
- ・ 加工流通業の体力下落
- ・ 住宅建築件数の減少



- ・ 工務店あるいは施主に直接販売
- ・ 住宅用木材以外の用途にも販売
- ・ 徹底した合理化

2004年4月



東紀州・尾鷲ひのきの会

1. 「家を建てるなら近くの山の木で！」をテーマに「FSC森林認証木材」を中心に地元の「尾鷲ひのき」を広く普及させることにより、地域の木材業の活性化、地域の森林の健全化を目指し活動を進めていく。
2. 複雑な木材の流通のルートを簡素化し、山から家まで顔の見える、住まい手に安心して使っていただけるネットワークづくり。
3. 地域のFSC認証取得山林とCOC認証取得工場が中心となり14名の会員で2003年10月に組織化。
4. 住宅の材料として木材を供給するだけではなく、それを生み出す森林のことから木材業全般そして実際の家づくりまで、山林経営、製材業といった山側の視点から情報発信をしていく。

2004年4月



安全性装備

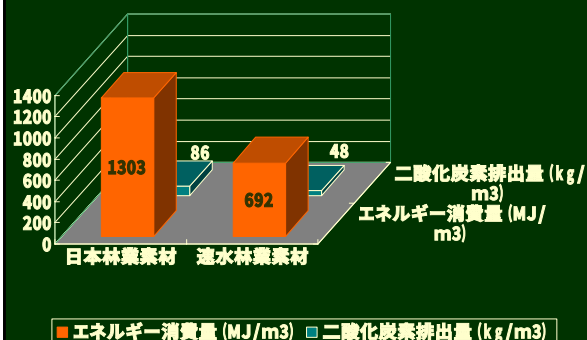
完全な装備で伐採する。ヘルメットは飛来転落防止対応イヤーマフとメッシュフェイスガードあご紐付き、チェーンソープロテクターチャップス装着靴、はつま先にスチール入り安全靴、制服の色は自然に目に付くオレンジ黄色、チタンオイルは植物性



2004年4月



速水林業のLCA



2004年4月



速水林業のエネルギー収支

- ✓速水林業では木材1m³につき693MJ(メガジュール) 石油約24リットル分のエネルギーを消費
- ✓二酸化炭素48kgを排出
- ✓日本の木材生産における平均的なエネルギー消費量に比べて半分
- ✓森林では1年間に3,200tの二酸化炭素を吸収
- ✓木材生産で排出される二酸化炭素の16倍以上を吸収している

参考: 独立行政法人国立環境研究所(2002)、環境負荷原単位データブック

2004年4月



林業経営の今後

1. 今一度生物としての樹木を見つめる
2. 森林所有者か管理者かの判断
3. 既存の育林体系から脱皮する
4. 知的な現場を育てる
5. 差別化か大量生産かの選択
6. 使いやすい木材加工を行う
7. 山村の豊かさ基準を持つ

2004年4月